

有機農業技術のつぼ

【NO. 1 2】

| | |
|---------|----------------|
| 作物名 | ミニトマト |
| 対応技術の項目 | その他 |
| | 施肥・栽培改善法 |
| | 化学肥料の代替技術、草勢維持 |

《情報収集先の経営概要等》

洞爺湖町 佐伯 昌彦 経験年数33年（うち有機年数33年）
 経営耕地面積 3.41ha
 ミニトマト 0.30ha（うち有機面積 0.30ha） きゅうり 0.03ha
 セルリー 1.43ha いちご 0.15ha
 大玉トマト 0.15ha かぼちゃ 0.10ha
 スイートコーン 0.10ha アスパラガス 0.10ha
 その他野菜 0.25ha おうとう 0.80ha
 労働力 家族3人 雇用1人 臨時延べ200人
 有機JAS認定の取得状況（H13年取得）

問題点

慣行栽培に比べて収量レベルが低い

- 土壌養分・土壌の腐植が不足しているのではないか？

対応

土壌の改善と側枝の利用

つぼ

- 「土づくり」に重点を置き、土壌養分の補給と土壌の腐植質を増やすことを目的に、多様（15～16種）な有機物を原料とした「ぼかし肥料」を使用し、微生物の多様性に富んだ土づくりを実践
- 「地上部が伸長しているときは、同様に地下部も伸長する」との考えのもと、常に根の生育を確保し、後半まで草勢を維持するため、加温型・無加温型含め、7～8段目以降の側枝を放任し、根の伸長を促進



※ 対応技術活用上の注意点

- ・ ぼかし肥料は品質の安定したものを使う。（佐伯氏は「モグラ堆肥」の使用開始後4～5年で収量性が改善）
- ・ 側枝の放任により茎葉が混み合い、風通しが悪くなることから、病害虫の発生に注意。

成果

収量が増加した

- 導入前 5,000kg/10a → 導入後 7,000kg/10a

【参考】

- 「モグラ堆肥」を長期連用することで、土壌物理性の改善効果が見られた
- 本事例で使用されている「資材」の概要

- ・ 特殊肥料 ペレット 「モグラ堆肥」(発酵・微生物堆肥)
- ・ 販売元 (株)マルタ (東京都千代田区外神田6-5-12 偕楽ビル (新末広) 3F)
- ・ 成分等 N-4、P-7、K-3~2
 - 【有機質】
菜種粕、魚粉、海藻分、発酵大豆粕、カニガラ、米糠、グアノ 等
 - 【有機物】
発酵ピートモス (腐植)
 - 【その他】
粘土鉱物、天然加里 等
- ・ 施用方法 (10a 当たり)
 - 【果樹類】 400 ~ 800 kg
 - 【果菜類・施設園芸】 400 ~ 1,200 kg
 - 【葉菜・根菜類】 400 ~ 600 kg